

「こんな体じゃなかったら…。でも、お蔭で羽生さんに出会えた…」

—— ネフローゼゆえ将棋に挑み続けた“早世の天才棋士”、村山聖

映画・健康エッセイスト 小守 ケイ

「どうした?」。94年、大阪の春。ボサボサ髪の太った若い男が道路端に倒れ込んだ朝。店のオヤジが声をかけると、男は薄目を開けて「急いで将棋会館に連れて行って」。オヤジは慌てて軽トラで会館に担ぎ込み、男はよろけながら対局室へ。「では、竜王戦予選を始めます」。——男は、現将棋界トップの羽生善治と同世代の棋士、村山聖七段。25歳。「羽生さんを倒したい…」。



ネフローゼから浮腫み、息切れ、高熱、高血圧…

大阪での羽生戦。対局後はいつも消耗し寝込む聖だが、完敗に全く眠れず、ネフローゼのため6歳から長期入院した郷里、広島での将棋が蘇る。「やった！王手じゃ!」。それは楽しくも病気を受け容れることでもあった…。「僕に

は将棋しかない、強くなりたい…」。

「体調、どうや?」。翌朝、師匠の森と同門の江川が牛丼を手に見舞いに来る。万年床、薬剤、



カップ麺のカラ、少女漫画…。森が熱を計らせ、「大丈夫、39.2度や」と告げると、聖は「先生、僕、東京へ行きます!羽生さんの近くに」。江川は呆れて「東京? 誰が看病?」と言うも、森は「大賛成やな」。

「僕には時間が無い。勝ちたいんじゃ」

東京将棋会館。「“怪童丸”が来た!」。浮腫んだ顔と体、伸びた髪と爪。当初は遠ざけられるも、打ち解けると棋士仲間と酒に麻雀。将棋も順調で、翌95年にA級八段に昇級、大阪の森を喜ばせる。「村山君、勝ち過ぎや」。

しかし、聖の運命は実に非情で、その冬、立ち眩みから転倒すると、「進行性膀胱癌。手術を」。動揺した聖、大阪で森と大酒を喰らい、荒れてポケットの札束をちぎり捨てる。「金なんて何の意味もない!」。

「一緒に将棋の深い海へ…」。97年2月末、北国の旅館。腰痛や血尿を隠して羽生と対局。聖が競り勝った後、二人は小料理屋で将棋への愛を語り合う。その後、両親や森に癌を告げ、6月に膀胱と前立腺摘出。術後は“脳が鈍る”と抗がん剤、放射線治療を拒み、郷里でリハビリ後、98年3月、看護師を伴い羽生戦に臨んだ。長時間の攻防。深夜、皆が聖の勝利を確信した時、次の一手で痛恨の落手!「負けました…」。

■ 映画の見所 ■

聖はその後1ヶ月の対局に全勝するも、癌が再発。8月8日、29歳で他界。死後、九段が追贈された。将棋ファンでなくても楽しめる映画で、聖役の松山ケンイチが25kg太って将棋に命を懸ける青年を演じた感動作! 森(リリー・フランキー)との師弟愛や家族愛、羽生(東出昌大)など仲間との友情も丁寧に描かれ、胸を打つ。原作は大崎善生の同名小説。



「聖の青春」
DVD 3,800円+税
Blu-ray 4,700円+税
発売元・販売元:
株式会社KADOKAWA

小児ネフローゼの一部は予後不良

【監修】公益財団法人結核予防会 理事
総合健診推進センター 所長 宮崎 滋

ネフローゼとは尿に大量のタンパクが出て、血中蛋白が減少し浮腫をきたす疾患です。低蛋白血症を代償する為、肝での脂質合成が高まり高コレステロール血症になり、浮腫が強いと循環血液量が減るため低血圧で失神することもあります。

小児ネフローゼは、小児1万人あたり6.5人が発症し、その9割

は原因不明です。大部分は治療で寛解しますが、治療無反応例の20年生存率は約4割です。治療には副腎ステロイドや免疫抑制薬が用いられる為、感染症が起こり易くなります。対症療法として、尿蛋白減少には降圧薬のARB*が、浮腫には利尿薬が、高コレステロール血症にはスタチンが用いられます。

食事は、腎保護には塩分・蛋白制限食、筋萎縮予防には高エネルギー食とし、激しい運動は避け、規則正しい生活が勧められます。ネフローゼと膀胱癌との因果関係はないと言われています。

*ARB: アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬